

白石和紙の伝承と発展について

菅野 恭子



〔質問〕第413回定例会の一般質問において、

「白石和紙を守り発展させていくことは、本市に大きな価値をもたらすものであり、行政として必要な支援を積極的に行っていくべきではないか」との質問に対し、市長から「今、

本人の意向を確認中であり、その結果により今後の方向性を見きわめたい」との答弁があった。その後の状況と伝承可能な方向であれば、どのような取り組みを検討していくのか。

〔答弁〕【市長】本人からは、白石和紙を続けたい思いはあるが、現実的には難しいとの話しを受けた。しかし、

白石和紙文化を後世に残すため、支援策などを検討したいと話したところ、協力のご理解をいただいた。

具体的には、後継者育成事業の実施を検討している。また、製造工程等を映像で記録し、写真文献とあわせて後世に伝承するため準備を進めている。

〔質問〕事業の財源は。

〔答弁〕【市長】後継者育成事業は、国の補正予算で創設された「地域活性化地域住民生活等緊急支援助交付金」の地方創生先行型事業の活用を考えている。

◎オープンデータ推進の取り組みについて

〔質問〕国や自治体などが所有する公共データは国民共有の財産であり、政府は誰でも自由に利用できる取り組みを進めている。

特に、自治体の公共

データが広く活用されれば、防災や医療・保育など生活に身近な情報が地域住民に共有されることにより、行政サービスの向上が期待できる。

千葉市では、地質等を詳細に調べるボーリング調査のデータが公開されており、地域全体の地質構造が一覧でき、新規の調査が不要となるなどの経費削減のほか、防災対策にも活用されている。

本市も取り組むべきではないか。

〔答弁〕【市長】2月に国から示されたオープンデータ推進ガイドラインの趣旨に沿って進めるよう検討していく。

〔その他の質問〕

- ◎鳥獣被害対策について
- ◎地域住民生活等緊急支援助交付金について
- ◎高校生議会の開催について

本市の酪農の現状把握と支援策について

大野 栄光



〔質問〕国民の健康増進のために推進してきた酪農は、十分に生乳が補えたため、生産者にとつて著しく低い牛乳価格となった。その結果、所得が低迷し、多くの酪農家が離脱し廃業している。

今、守るべき酪農の現状をどのように捉えているのか。

〔答弁〕【市長】風評被害、経営者の高齢化、輸入飼料の高騰化などで、酪農生産基盤の弱体化が進行し、回復には遠い状況にある。このことが、後継者不足による酪農家の戸数減少の主な要因と考え、あらためて、自給飼料生産の大切さを痛感している。さらに、TP

P交渉など不透明な要素もあり、不安を抱えながら酪農経営をしていると認識している。

市としても、牧草地の除染で、自力除染ができない草地の除染を実施し、一日も早く自給飼料の生産を行えるようにしたいと考える。

〔質問〕かつては死廃牛処理は負担にならなかったが、BSE発症以来、高額な支払いとなった。酪農家への支援策について伺う。

〔答弁〕【市長】宮城県畜産協会で補助金を交付している。運搬費は4千円、また東北の場合、運搬費のほか処理費で7千500円の補助を行っている。

〔質問〕結核、炭疽病等の法定伝染病等の予防接種費の支援策について伺う。

〔答弁〕【市長】対象疾病発生地域の組織的クチン接種に対して、宮城県畜産協会から補助金が交付されている。

◎子育て支援住宅について

〔質問〕子どもたちが成長すると居住空間が広く求められ、戸建ての子育てしやすい市営住宅があればと思うがいかがか。

〔答弁〕【市長】大畑地区の白石雇用促進住宅を、子育て住宅にしたいと考えているため、新たな市営住宅の建設は考えていない。

◎市民防災の日の制定について

〔質問〕3月11日を市民防災の日に制定し、二次災害や減災を学ぶ日としてはどうか。

〔答弁〕【市長】市の防災訓練は6月に実施し、市民にも定着している。3月は寒さも厳しく、風邪などのリスクが高いため、市独自の市民防災の日の制定は考えていない。